

3 ウイルス検定

(1) イネ縞葉枯病ウイルス

ア 目 的

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒の実態を明らかにし、今後の防除対策に資する。

イ 採集及び検定方法

(ア) 供試虫の採集

越冬世代：2013年（平成25年）3月12日～29日

第1世代：2013年（平成25年）5月8日～23日

(イ) 検定方法

ラテックス凝集反応法により、越冬世代は4月下旬、第1世代は6月上旬に検定を行った。

ウ 結果の概要

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、越冬世代、第一世代ともに平年よりやや低かった（第1、2、3、4表）。

第1表 越冬世代の各地点における保毒虫率

調 査 地 点	検定虫数	保毒虫数	保 毒 虫 率 (%)
長崎市手熊	85	0	0
長崎市琴海戸根	109	0	0
長崎市外海町神ノ浦	43	1	2.3
西海市大瀬戸町多以良	7	0	-
諫早市多良見町	118	2	1.7
諫早市小船越町	7	1	-
諫早市小野	117	2	1.7
諫早市森山	47	0	0
雲仙市国見町	42	0	0
雲仙市吾妻町	7	0	-
大村市鈴田	95	1	1.1
東彼杵町三根	45	1	2.2
佐世保市長畑	53	2	3.8
佐世保市針尾	69	0	0
松浦市志佐	14	0	-
平戸市紐差	35	0	0
五島市山端	30	0	0
五島市岐宿町	60	1	1.7
五島市玉之浦中須	48	4	8
壱岐市勝本町	121	3	2
壱岐市郷ノ浦町柳田	50	1	2
対馬市厳原町内山	1	0	-
対馬市豊玉町	-	-	-
県 全 体	1,203	19	1.6
平 年 値	-	-	2.9

*保毒虫率については、30頭以上捕獲した調査地点のみ算出

第2表 過去の越冬世代の保毒虫率の推移

調査年度	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	平年
保毒虫率 (%)	4 . 0	1 2 . 6	1 . 3	1 . 2	2 . 1	2 . 9

注) 平年値は平成 1 5 ~ 2 4 年の平均 (最大・最小値を除く)

第3表 第1世代の各地点における保毒虫率

調 査 地 点	検 定 虫 数	保 毒 虫 数	保 毒 虫 率 (%)
長崎市琴海	47	0	0.0
長崎市外海神の浦	6	1	-
西海市大瀬戸多以良	-	-	-
諫早市小野	150	1	0.7
諫早市森山	150	2	1.3
諫早市多良見町元釜	36	0	0.0
大村市鈴田	149	0	0.0
東彼杵町三根	70	0	0
雲仙市吾妻町	25	0	-
雲仙市国見町神代	131	3	2.3
佐世保市長畑	50	0	0.0
佐世保市針尾	100	1	1.0
松浦市志佐	4	0	-
平戸市紐差	2	0	-
五島市富江	78	0	0.0
五島市崎山	4	0	-
五島市三井楽	35	0	0
五島市大津	31	0	0.0
壱岐市芦辺町	1	0	-
壱岐市郷ノ浦町	150	4	3
壱岐市勝本町	100	1	1.0
対馬市厳原町豆酛	46	0	0
対馬市厳原町瀬	-	-	-
対馬市豊玉町曾	-	-	-
県全体	1365	13	1.0
平年値	-	-	2.0

*保毒虫率については、30 頭以上捕獲した調査地点のみ算出

第4表 過去の第1世代の保毒率の推移

調査年度	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	平年
保毒虫率 (%)	1 . 0	3 . 9	1 . 6	0 . 5	2 . 5	1 . 8

注) 平年値は平成 1 5 ~ 2 4 年の平均 (最大・最小値を除く)

(2) イネ萎縮病ウイルス

ア 目 的

ツマグロヨコバイのイネ萎縮病ウイルス保毒の実態を明らかにし、今後の防除対策に資する。

イ 採集及び検定方法

(ア) 供試虫の採集

2 0 1 3 年 (平成 2 5 年) 5 月下旬

(イ) 検定方法

ラテックス凝集反応法により 2 0 1 3 年 6 月 4 日に検定を行った。

ウ 結果の概要

ツマグロヨコバイの第 1 世代のウイルス保毒率は平年並であった (第 5、6 表)。

第 5 表 各地点における保毒虫率

採 集 地 点	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率
諫早市森山	135	0	0
諫早市小船越	149	0	0
合 計 (平 均)	284	0	0

第 6 表 過去の第 1 世代の保毒率の推移

調査年度	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	平年
保毒率 (%)	0	0	0	0	0	0

注) 平年値は平成 1 5 ~ 2 4 年の平均 (最大・最小値を除く)